

学校教育目標「心豊かで、自主性に富み、創造的で、未来を切り拓く生徒の育成」

大村中学校
学校だより



陽光

～温かな日の光の中で自主・創造・敬愛を育む～

第13号 令和6年7月10日

文責 副校長 岸本 博史

優秀賞受賞！ おめでとうございます

7月7日（日）シーハットおおむら さくらホールで行われた「社会を明るくする運動」中学・高校生（大村・東彼杵地区）弁論大会において、本校3年生坂本愛実さんが「海と支え合う」という演題で発表し、見事優秀賞を受賞しました。この日のために、放課後一生懸命練習する姿を見ていたので、本当にうれしく思います。また、吉田葵さんもきはきとした口調で応援弁士を務めました。さらに池田ちこさんは、1日保護司として保護司の役割を参観者に伝えるとともに、大会を見守る大役を見事に努めました。



海と支え合う

大村中学校3年 坂本愛実

私は海が大好きです。私は幼い頃宇久島という小さな島で育ちました。太陽に照らされ、輝く青い海と白い砂浜は私が今まで見た海の中でも一番綺麗でした。海は島民みんなで掃除をしたりゴミ拾いをしたりしていたので青色以外の海を私は見たことがありませんでした。

島では行事として海の清掃活動が行われていました。幼稚園生からお年寄りまで年齢を問わず大勢の島民が集まり自分たちの大切な海を守っています。ペットボトル、割れた瓶、注射器、洋服、プラスチック製の浮き、レジ袋、流木など沢山のゴミが流れ着くので軍手と長靴装備は当たり前でした。足にガラスが刺さったり流木で手を切ったりすると、漂流したゴミには菌がたくさんついているので体内に入る恐れがあり、危険です。砂浜は歩きにくいし夏は暑さで作業をするのも大変でした。

ではなぜ、こんなにきつい作業をするのかと聞かれたら答えは1つです。「海を守りたいから」です。海は私達に美味しい水産物を届けてくれるだけではなく、気候を安定化させ、大気成分を調整し、水を浄化し、膨大な生物種を養い、さらに美しい景観は精神の充足をもたらしています。海はこんなにも沢山のことで私達の暮らしを守ってくれています。

それに対して私達は、海の暮らしを守れているのでしょうか。皆さんは、今どのような色の海が目に映っていますか。きれいな青色ですか。淀んだ緑色ですか。私は海の色は海の気持ちも



表していると思います。今、世界中で自然災害が起こっており、それをテレビで見る事が増えました。その時、画面に映る海は、灰色のような色をしていました。海は人間に、これ以上海を汚すのはやめてほしいと訴えるのと同時に人間に助けを求めていたのだと思います。海の助けを求める方法は人間の命や暮らしも奪ってしまう残酷な求め方だったと思います。しかし、人間も同じくらい海の命や暮らしを奪い、苦しめていたんだと思います。

海の汚染の原因として考えられる大半は、私たち人間が捨てた海洋ごみによるものです。大雨のとき、道路や川、排水管から海に流れ込んだプラスチックは何百万トンも水面に浮いていると言われていています。海に流れ込んだプラスチックを海鳥や海の生物は餌と間違えて食べてしまい苦しんでいます。これらのプラスチックゴミは簡単にはなりません。生分解されるまでには、なんと最大で 1,000 年以上かかると言われています。当然不法投棄は法律により禁止されています。2015 年に結ばれた持続可能な開発目標 (SDGs) の 14・「海の豊かさを守ろう」に対する取り組みとして、現在日本ではペットボトルや食品トレーのリサイクル、エコバックの持参などが行われています。そして、私が今、住んでいる大村市では、きれいな海を取り戻すための取り組みとして、今から 8 年前に、森園公園のすぐそばに、ガラスの砂浜が作られました。ガラスの砂浜はゴミとして捨てられたガラス瓶を砕き、その角を丸めて作られています。海をきれいにするために、一度はごみとなった廃ガラスを再利用して、環境に優しい水質改善を行っています。まだあまり知られてはいませんが、欧米を中心に広がっている取り組みに MSC という認証制度があります。MSC 認証は、「海のエコラベル」とも呼ばれ「海の環境に配慮した魚の取り方を守っている水産物」に与えられるラベルです。また ASC 認証というラベルもあり、これは「環境や地域社会に配慮した養殖業で生産された水産物」に与えられます。MSC 認証や ASC 認証のラベルが貼られているということは海に優しく環境に配慮した商品だとわかります。このような商品を購入することで SDGs に貢献し、海を守っていくことにつながる第一歩だと私は思います。

ごみはごみ箱に入れ、道端に捨てない。リサイクルを心がけエコバックを持参する。これだけでも青い海を守ることに繋がります。今すぐに海の環境を変えるということは難しいかもしれませんが、その行動を続けた時にぜひ海を見てみてください。きっと今の海の色よりも未来の海はもっと輝かしいものになっていると私は信じています。

応援弁士

大村中学校 3年 吉田 葵

みなさんこんにちは。私は大村中学校 3年の吉田葵です。坂本さんとは、生徒会役員として一緒に活動しており、彼女の責任感と行動力にいつも支えられています。また、親友として楽しかったこと、辛かったことなど、様々なことを分かち合う中で、坂本さんが幼少期を過ごした宇久島の話をよく聞きます。島への愛、出会った人、そして海の美しさ。「海の輝きをいつまでも守り続けていきたい」という彼女の想い、意見をぜひお聞きください。

題名は「海と支え合う」弁士は大村中学校 3年坂本愛実さんです。



1 日保護司

大村中学校3年 池田ちこ

皆さんは保護司についてどのくらい知っていますか。今回、一日保護司に任命されるまで、私は保護司という存在を知りませんでした。おそらく私と同じように保護司について知らない中学生はいるのではないかと思います。

私は、事前に保護司会の方々から保護司について直接話を聞くことができました。保護司は、犯罪や非行をした人たちが再び罪を犯すことがないように、その立ち直りを地域で支える民間のボランティアであり、社会で必要とされている重要な仕事だということがわかりました。

近年、再犯の可能性が高くなっているというデータが出ています。再犯が増えるということは、新たな被害者が出るということでもあります。被害を出さないために、私達は何ができるのでしょうか。中高生という年齢は様々なことに不安や苦しみを抱き、どうしようもなくなって罪を犯してしまうことがあるのだと思います。もしあなたが「どうしようもなくなった」というとき、相談できる誰かがいますか？誰かが不安や苦しみを抱いているとき、あなたは寄り添うことはできますか？どんな人も、「誰か」を必要としています。

誰かが身近で支えてくれることで、前向きになれると思います。希望ももてます。どんなに時間がかかろうと、声をかけ、背中を押し、諦めずに寄り添い続ければきっと明るい未来が待っています。

数多くの中高生が持っているスマートフォン。これを使って、安全で安心な明るい社会を目指すことができます。法務省保護局のホームページやSNS等で、立ち直り支援に関する様々な発信を行っているそうです。SNSをフォロー・拡散することでたくさんの人に情報が知れ渡ります。また、「社会を明るくする運動」の様々なイベントや広報活動にも参加することで明るい社会を目指すことができます。

全ての人々が共通して明るい社会を目指していくのならば、きっと自分たちが思い描く理想の社会となっていきます。

私は、一日の中にある小さな幸せを見つけ、それをたくさんの人と共有することで笑顔が広がっていくのではないかと考えます。そんな小さな幸せをたくさんの人と共有すれば一つの大きな幸せとなって誰かの心を救ってくれます。どんどん幸せを繋いでいけば、明るい社会をつくっていけるのではないのでしょうか。

幸せと笑顔に満ち溢れた社会、それが私が考える理想の社会です。



吹奏楽部のみなさん 楽しい演奏をありがとう

今回の「社会を明るくする運動」中学・高校生（大村・東彼杵地区）弁論大会では、アトラクションとして、本校吹奏楽部が演奏を行ってくれました。今月27日（土）に長崎市のブリックホールで開催される、「第69回県吹奏楽コンクール 県央地区予選」で演奏する課題曲「メルヘン」をはじめ全5曲を演奏しました。演奏後、アンコールがかけられ少しだけ戸惑いも見られましたが、会場と一体となって楽しい演奏を行ってくれました。

吹奏楽部の皆さん、ありがとうございました。吹奏楽コンクールも頑張ってください。

